

## 全国月間火山概況（平成 27 年 8 月）

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続しています。

新岳では、6月19日のごく小規模な噴火以降、噴火は観測されていませんが、火山性地震が時々多く発生しました。火山性微動は観測されていません。火山ガスはやや少ない状態で経過しています。

今後も、5月29日と同程度の噴火が発生する可能性があります。大きな噴石の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

桜島では、15日07時頃から南岳直下付近を震源とする火山性地震が多発し、また、桜島島内に設置している傾斜計及び伸縮計では山体膨張を示す急激な地殻変動が観測されました。このため、同日10時15分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から4（避難準備）に引き上げました。

その後、南岳直下付近で多発した火山性地震は16日以降急激に減少し、今年1月以降の噴火活動が継続していた時期と同程度になり、傾斜計や衛星による観測結果では、8月17日以降に地盤の隆起はみられていません。観測データの状況から、南岳の地下に貫入したマグマの浅部への上昇は停止し、深部からの新たなマグマの貫入も生じていないと考えられます。

また、8月19日以降、ごく小規模な噴火が発生していますが、この噴火は桜島でこれまでも観測されてきた噴火活動であると考えられます。

これらのことから、桜島は噴火警戒レベルを4に引き上げる以前の火山活動に戻っていると判断し、9月1日16時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）に引き下げました。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

箱根山では噴火は観測されていませんが、火山活動は引き続き活発な状態で経過しています。

火山性地震は7月以降減少しており、やや少ない状態で経過していますが、地殻変動観測では引き続き山体の膨張を示す変動がみられ、大涌谷周辺では引き続き噴煙や噴気が勢いよく噴出しています。

今後も小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大涌谷周辺の概ね1kmの範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

西之島では、海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いています。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサーズ等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね4km以内では噴火に警戒してください。

雌阿寒岳では、ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする火山性地震はやや多い状態で推移しています。

25日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ火口付近の地熱域は拡大が認められた7月27日及び8月5日の観測時と同程度の拡がりであったことを確認しました。

全磁力連続観測ではポンマチネシリ96-1火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力の変化が継続しています。

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

吾妻山では、大穴火口からの噴気活動はやや活発な状態が続いています。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺（火口から概ね500mの範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

草津白根山では、湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分にも活動活発化を示す変化がみられています。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

浅間山では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は多い状態が続いています。また、二酸化硫黄の放出量も多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや高まった状態で経過しています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。登山者等は地元自治体等の指示

に従って危険な地域には立ち入らないでください。

御嶽山では、火山活動は低下した状態が続き、昨年（2014年）10月以降噴火が発生していないことから、昨年9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。一方、弱いながらも噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年9月27日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

阿蘇山の中岳第一火口では、8日12時14分にごく小規模な噴火が発生しました。

火山性微動の振幅は概ね小さな状態でしたが、26日に一時的に大きくなりました。孤立型微動は概ね多い状態で経過しました。火山性地震は時々発生しました。

中岳第一火口では、活発な火山活動が続いていることから、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（新燃岳）では、火口直下を震源とする火山性地震が時々発生しました。GNSS連続観測によると、新燃岳周辺の一部の基線で、2015年5月頃からわずかに伸びの傾向が認められます。また、北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013年12月頃から伸びの傾向がみられていましたが、2015年1月頃から停滞しています。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

諏訪之瀬島の御岳火口では、小規模な噴火が時々発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

白山では、9月2日に噴火警戒レベルの運用を開始し、9月2日13時00分に噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）を発表しました。火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

表1 9月8日現在の火山現象に関する警報及び予報の発表状況

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル5（避難）	口永良部島
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	箱根山、桜島
	入山危険	西之島
	レベル2（火口周辺規制）	雌阿寒岳、吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、白山、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌブリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、婿婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、霧島山（新燃岳、御鉢以外）、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、折捉焼山、折捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

印を付した火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図1 火山現象に関する警報を発表中の火山

## 【各火山の活動状況及び警報・予報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、警報・予報事項に変更はありません。

### 雌阿寒岳 [ 火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制) ]

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする火山性地震は、4月中旬以降、増減を繰り返しながら多い状態となってきましたが、8月は日回数100回を超える日が1日あったものの、全体としては徐々に減少してきています。しかし2015年4月中旬以前の活動と比較すると、依然としてやや多い状態で推移しています。

25日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ第3・第4火口の地熱域は、拡大が認められた7月27日及び8月5日の観測時と同程度の広がりであったことを確認しました。その他の火口については特に変化は認められませんでした。

遠望カメラによる観測によると、ポンマチネシリ96-1火口では2010年以降と比較すると、6月頃から噴煙量がやや多くなっています。

全磁力連続観測ではポンマチネシリ96-1火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力の変化が継続しています。

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

### 十勝岳 [ 噴火予報 (噴火警戒レベル1、活火山であることに留意) ]

25日に実施した現地調査では、振子沢噴気孔群で、6月及び7月の現地調査で確認した振子沢噴気孔群の地熱域を引き続き確認しました。振子沢噴気孔群からは、引き続き強い刺激臭を伴った噴気が出ていました。また、前十勝頂上付近では、複数の列状の噴気を確認しました。この噴気は7月の現地調査でもわずかに見られていました。

62-2火口とその周辺では、引き続き熱活動が高まっていると考えられます。

GNSS連続観測<sup>1)</sup>では、2006年以降、62-2火口直下浅部の膨張を示すと考えられる変動が引き続き認

められています。火口に近い前十勝観測点では観測点周辺の局所的な変動と見られる変化が 2015 年 5 月頃からみられていましたが、7 月に入り鈍化しています。前十勝観測点周辺の局所的な変動は衛星による地殻変動観測でも認められています。

望岳台 - 翁温泉 - 湯の滝を結ぶ基線では 5 月頃からわずかに伸張しており、2006 年以降みられている 62-2 火口直下浅部よりも深い山体内でごくわずかに膨張している可能性が考えられます。

十勝岳では、直ちに噴火に至る兆候は認められませんが、ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生及び発光現象などが観測されており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

### **吾妻山[火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]**

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。

大穴火口付近直下を震源とする火山性地震は、増減を繰り返しながら少ない状態で経過し、今期間の地震回数は 44 回(前月 154 回)となりました。火山性微動は観測されませんでした。

11 日及び 12 日に実施した現地調査では、大穴火口内で地熱域の拡大とその領域の一部からの弱い噴気を確認しました。また、2013 年以降拡大がみられている地熱域を引き続き確認しました。

浄土平の傾斜計では、2014 年 4 月以降、緩やかな西側(火口方向側)上がりの変動が継続していましたが、2015 年 7 月頃から停滞しています。GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、2014 年 9 月頃から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、2015 年 6 月頃から停滞しています。国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014 年 12 月頃から一部の基線で山体の膨張を示す地殻変動が見られていましたが、2015 年 7 月頃から停滞しています。

大穴火口周辺で実施している全磁力繰り返し観測によると、2014 年 10 月から 2015 年 8 月にかけて大穴火口内の観測点の全磁力値は減少、大穴火口北側の観測点の全磁力値は増加しており、大穴火口周辺の地下では熱活動が活発化している可能性が考えられます。

大穴火口から概ね 500m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

### **草津白根山[火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]**

2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加しました。2014 年 8 月 20 日以降はやや少ない状態で経過していますが、2015 年 1 月と 2 月に一時的な火山性地震の増加がみられました。地殻変動観測によると、2014 年 4 月頃から湯釜付近の膨張を示す変動が認められていましたが、2015 年 4 月頃より鈍化しています。

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が続いています。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分にも活動活発化を示す変化がみられています。一方、全磁力観測による 2014 年 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014 年 7 月以降停滞しています。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

### **浅間山[噴火警戒レベル 2 (火口周辺規制)]**

浅間山では、6 月 19 日の噴火以降、噴火は観測されていません。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震は多い状態が続いています。発生した地震の多くは BL 型地震(低周波地震)でした。7 月に周期の短い火山性地震(BH 型地震)の割合が増えましたが、8 月に入ってから割合は減少しています。震源の浅部への移動等の変化はみられていません。火山性微動は 7 月以降、少ない状態で経過していましたが、8 月 19 日以降、やや増加しています。

山頂火口で、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を引き続き観測しており、噴煙量は 6 月以降、増加傾向がみられます。

また、二酸化硫黄の放出量も多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや高まった状態で経過しています。

GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、2009年秋頃から縮みの傾向がみられていましたが、一部の基線で2015年5月頃からわずかな伸びがみられます。傾斜計では、6月上旬頃から山頂西側のやや深いところを膨張源とする緩やかな変化がみられており、7月下旬頃からは鈍化しながらも継続しています。光波測距観測では、6月頃から山頂と追分の間で縮みの傾向がみられており、山頂部のごく浅いところの膨張によるものである可能性があります。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

### **御嶽山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

今期間、火山性地震は少ない状態で経過していますが、2014年8月以前の状況には戻っていません。低周波地震を17日に1回観測しています(7月:2回)。この地震の発生時及びその前後で、噴煙や地殻変動の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられていません。火山性微動は観測されていません。

御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年(2014年)10月以降噴火が発生していないことから、昨年9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。一方、弱いながらも噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年9月27日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

### **箱根山[火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]**

箱根山では噴火は観測されていませんが、火山活動は引き続き活発な状態で経過しています。

6日に実施した現地調査では、15-1火口内部で、暗灰色の土砂と思われる噴出現象を観測しました。現象の規模は小さく、観測中火口縁から外へ噴出物が飛散することはありませんでした。15-1火口及び15-2~4の各噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴煙や噴気が勢いよく噴出しているのを確認しました。15-1火口の大きさ及び形状の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、引き続き15-1火口の東側で高温領域を確認しました。また、これまでの現地調査で確認していない新たな噴気孔を確認しましたが、大涌谷全体の状況としては、前回(7月21日)の現地調査と比較して、噴煙や噴気の量に大きな変化はみられていません。

火山性地震は7月以降減少しており、やや少ない状態で経過しています。17日に箱根町湯本で震度1を観測する地震が発生しました。震度1以上を観測したのは、7月3日以来です。低周波地震及び火山性微動は観測されていません。

国土地理院のGNSS<sup>1)</sup>連続観測によると、箱根山周辺の基線で4月から山体の膨張を示す地殻変動がみられていましたが、8月下旬頃からその傾向に鈍化がみられています。

今後も小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大涌谷周辺の概ね1kmの範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また、風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

### **西之島[火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報]**

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いています。

19日に海上保安庁が、23日に第三管区海上保安本部が上空からの観測を実施しました。19日の観測では、第7火口の火口縁及び火砕丘北東斜面にある噴気孔から、青白色~白色の火山ガスが連続的に放出されており、白~黄色の火山昇華物が周辺に広く分布していました。火砕丘北東斜面から流出した溶岩は北方向と東北東方向に流れていました。また、溶岩トンネルを経由して東方向と南方向へも流れており、一部は海岸に達していました。新たな陸地の大きさは、東西約1,980m、南北1,970m、面積2.71km<sup>2</sup>となり、前回(6月18日:東西方向約1,980m、南北方向2,090m、面積約2.70km<sup>2</sup>)と比べて東西方向は変化がなく、南北方向は約120m減少していました。溶岩流により主に東南東方向には拡大していましたが、全般に波浪による浸食と思われる海岸線の後退が認められており、特に南岸での海岸線の後

退が顕著でした。23日の観測では、第7火口の火口縁、火砕丘西斜面、南東斜面及び北東斜面にある噴気孔から、青白色～白色の火山ガスが連続的に放出されており、白～黄色の火山昇華物が周辺に広く分布していました。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね4km以内の範囲では噴火に警戒してください。

#### **硫黄島[火口周辺警報(火口周辺危険)及び火山現象に関する海上警報]**

7日に島北部の北の鼻の海岸付近で断続的にごく小規模な噴火が発生しました。火山性地震はやや少ない状態で経過しています。GNSS<sup>1)</sup>連続観測によると、地殻変動は2014年12月上旬頃から隆起の傾向がみられ、2015年3月頃から隆起速度が上がっています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点(ミリオンダラーホール(旧噴火口)等)及びその周辺では噴火に警戒してください。

#### **福德岡ノ場[噴火警報(周辺海域)及び火山現象に関する海上警報]**

18日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では変色水を確認しました。これまでの観測によると、福德岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生しています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

#### **阿蘇山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

中岳第一火口では、8日12時14分にごく小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上600mまで上がりました。阿蘇山で噴火を確認したのは2015年5月21日以来です。8日の噴火直後に実施した現地調査では、中岳第一火口の南側でわずかな降灰を確認しました。

期間中に火口縁の南側と南西側で実施した現地調査では、中岳第一火口内の141火孔から白色の噴煙が上がり、141火孔内の一部に湯だまりと、湯だまり内のごく小規模な土砂噴出を確認しました。赤外熱映像装置による観測では、湯だまりの最高温度は80～90と高い状態でした。141火孔南西側に約600の高温の噴気孔を確認し、南側火口壁の熱異常域の最高温度は約300と高い状態でした。

二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,100～1,700トン(7月:1,200～1,800トン)と多い状態でした。

火山性微動の振幅は概ね小さな状態でしたが、26日に一時的に大きくなりました。孤立型微動は概ね多い状態で経過しました。火山性地震は時々発生しました。

中岳第一火口では、活発な火山活動が続いていることから、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石が1kmを超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石にも注意してください。

#### **霧島山(新燃岳)[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が時々発生しました。

GNSS<sup>1)</sup>連続観測によると、新燃岳周辺の一部の基線で、2015年5月頃からわずかに伸びの傾向が認められます。また、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013年12月頃から伸びの傾向が見られていましたが、2015年1月頃から停滞しています。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から

概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

#### **霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)[噴火予報(活火山であることに留意)]**

9月2日01時02分に継続時間が3分程度の火山性微動が発生しました。火山性地震は9月2日に6回発生しました。

9月2日に実施した現地調査では、硫黄山及びその周辺では噴気は認められませんでした。

GNSS<sup>1)</sup>連続観測によると、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線では、2015年5月頃からわずかに伸びの傾向が認められます。また、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013年12月頃から伸びの傾向が見られていましたが、2015年1月頃から停滞しています。

えびの高原（硫黄山）周辺は活火山であることに留意してください

### 桜島[火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

8月15日に噴火警戒レベルを4(避難準備)に引き上げ、9月1日に3(入山規制)に引き下げ

桜島では、15日07時頃から南岳直下付近を震源とする火山性地震が多発し、また、桜島島内に設置している傾斜計及び伸縮計では山体膨張を示す急激な地殻変動が観測されました。このため、同日10時15分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを3(入山規制)から4(避難準備)に引き上げました。

その後、南岳直下付近で多発した火山性地震は16日以降急激に減少し、今年1月以降の噴火活動が継続していた時期と同程度になり、傾斜計や衛星による観測結果では、8月17日以降に地盤の隆起はみられていません。観測データの状況から、南岳の地下に貫入したマグマの浅部への上昇は停止し、深部からの新たなマグマの貫入も生じていないと考えられます。

また、8月19日以降、ごく小規模な噴火が発生していますが、この噴火は桜島でこれまでも観測されてきた噴火活動であると考えられます。

これらのことから、桜島は噴火警戒レベルを4に引き上げる以前の火山活動に戻っていると判断し、9月1日16時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3(入山規制)に引き下げました。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石(火山れき)が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

### 口永良部島[噴火警報(噴火警戒レベル5、避難)及び火山現象に関する海上警報]

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続しています。

新岳では、6月19日のごく小規模な噴火以降、噴火は発生していません。

火山性地震は、1日から3日、6日から11日に多い状態となりました。火山性微動は観測されていません。

3日、22日に東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び気象庁が実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり200~300トン(7月500~700トン)とやや少ない状態でした。

今後も、5月29日と同程度の噴火が発生する可能性があります。大きな噴石の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒(避難等の対応)をしてください。屋久島町の避難等の指示に従ってください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

新岳火口から半径2海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶ恐れがありますので、噴火に警戒してください。

### 諏訪之瀬島[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、小規模な噴火が時々発生し、噴火に伴う灰白色の噴煙が、最高で火口縁上1,200m(7月:1,300m)まで上がりました。爆発的噴火は発生しませんでした。

同火口では、夜間に高感度カメラで火映を時々観測しました。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、1日、2日、9日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰が観測されました。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

(火山の順は活火山総覧(第4版)による)

1) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

資料1 全国の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況のまとめ（平成27年9月8日現在）

（1）主な活火山

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	雌阿寒岳	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年9月29日火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年10月17日噴火予報(平常) 2008年11月17日火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年12月16日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年4月10日噴火予報(レベル1、平常) 2015年7月28日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	大雪山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	十勝岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年12月16日噴火予報(レベル1、平常) 2014年12月16日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年2月24日噴火予報(レベル1、平常)
	樽前山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	倶多楽	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	有珠山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年6月9日噴火予報(レベル1、平常)
	北海道駒ヶ岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	恵山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
東北地方	岩木山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	秋田焼山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2013年7月25日噴火予報(レベル1、平常)
	岩手山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	秋田駒ヶ岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年10月27日噴火予報(レベル1、平常)
	鳥海山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	栗駒山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	蔵王山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2015年4月13日火口周辺警報(火口周辺危険) 2015年6月16日噴火予報(活火山であることに留意)
	吾妻山	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2014年12月12日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	安達太良山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年3月31日噴火予報(レベル1、平常)
	磐梯山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年3月31日噴火予報(レベル1、平常)

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
関東・中部地方 関東・中部地方	那須岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年3月31日噴火予報(レベル1、平常)
	日光白根山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	草津白根山	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2009年4月10日噴火予報(レベル1、平常)切替 2014年6月3日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	浅間山	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月8日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年2月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年2月3日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2009年4月7日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年4月15日噴火予報(レベル1、平常) 2015年6月11日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	新潟焼山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2011年3月31日噴火予報(レベル1、平常)
	焼岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2011年3月31日噴火予報(レベル1、平常)
	乗鞍岳	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	御嶽山	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年3月31日噴火予報(レベル1、平常) 2014年9月27日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2014年9月28日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年1月19日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年3月31日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年6月26日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	白山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2015年9月2日噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)
	富士山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	箱根山	火口周辺警報(レベル3、入山規制)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年3月31日噴火予報(レベル1、平常) 2015年5月6日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年6月30日火口周辺警報(レベル3、入山規制)
	伊豆東部火山群	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2011年3月31日噴火予報(レベル1、平常)
	伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)
新島		噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
神津島		噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
三宅島		噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年3月31日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年6月5日噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)
八丈島		噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
青ヶ島		噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
西之島		火口周辺警報(入山危険)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2013年11月20日火口周辺警報(火口周辺危険) 2014年6月3日火口周辺警報(入山危険) 2014年6月11日火口周辺警報(入山危険)切替 2015年2月24日火口周辺警報(入山危険)切替
硫黄島		火口周辺警報(火口周辺危険)	2007年12月1日火口周辺警報(火口周辺危険)
福徳岡ノ場		噴火警報(周辺海域警戒)	2007年12月1日噴火警報(周辺海域警戒)

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・南西諸島九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	九重山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	阿蘇山	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2011年5月16日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2011年6月20日噴火予報(レベル1、平常) 2013年9月25日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年10月11日噴火予報(レベル1、平常) 2013年12月27日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2014年3月12日噴火予報(レベル1、平常) 2014年8月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	雲仙岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(新燃岳)	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月22日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年10月29日噴火予報(レベル1、平常) 2010年3月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年4月16日噴火予報(レベル1、平常) 2010年5月6日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2011年1月26日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2011年1月31日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2011年2月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2011年3月22日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2012年6月26日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2013年10月22日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	霧島山(御鉢)	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2014年10月24日火口周辺警報(火口周辺危険) 2015年5月1日噴火予報(平常)
	桜島	火口周辺警報(レベル3、入山規制)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年2月3日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年2月20日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年4月8日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年7月14日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年7月28日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年8月28日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年2月2日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年2月19日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年3月2日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年3月10日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2009年4月24日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年7月19日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2010年9月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年10月13日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2012年3月12日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2012年3月21日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年8月15日噴火警報(レベル4、避難準備) 2015年9月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制)
	薩摩硫黄島	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2012年11月29日噴火予報(レベル1、平常) 2013年6月4日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年7月10日噴火予報(レベル1、平常)

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	口永良部島	噴火警報 (レベル5、避難)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年1月25日噴火予報(レベル1、平常) 2008年9月4日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年10月27日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年3月18日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年8月4日噴火予報(レベル1、平常) 2009年9月27日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年10月30日噴火予報(レベル1、平常) 2011年12月15日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2012年1月20日噴火予報(レベル1、平常) 2014年8月3日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2014年8月7日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年5月29日噴火警報(レベル5、避難)
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)

注) 警報及び予報の発表履歴欄には、平成19年12月1日の火山現象に関する警報・予報及び噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示しています。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示しています。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルを示しています。

## (2) その他の活火山

以下の活火山(\*印を除く)では平成19年12月1日に噴火予報(平常)を発表しました。また、\*印の活火山では、活火山として選定された平成23年6月7日に噴火予報(平常)を発表しました。その後、いずれも火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ペルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

注) 平成27年5月18日から(平常)は(活火山であることに留意)に変更しました。